

農福連携インタビュー第3弾！ ～農作業繁忙期に助かった！～

岡崎市は、農福連携を推進しています！

今回、農福連携を実施している一組の農家さんと福祉事業所のお話を伺いました。

【今回お話を伺った農家さんと福祉事業所の紹介】

株式会社六ツ美ライスセンターさんは、時期により様々な作業を福祉事業所アルクスに委託しています。アルクスは、支援員と施設の利用者約3名で取り組んでおり、作業内容は、苗箱の洗浄作業や種まき、苗運び作業、ネギの根切り作業等様々です。

農業法人：株式会社六ツ美ライスセンター 取締役 高木さん（六ツ美地区）

- ・穀物（稲・麦・大豆）を栽培。
- ・農業は自然との勝負で、せっかく大きく育った作物も台風や大雨にやられ、台無しになってしまうことも少なくはありません。そんな中でも「何事にも最善を尽くす」という理念を基に、穀物の品質と供給の安定化を目指している農場です。
- ・愛知県で唯一の ASIAGAP 認証農場（玄米）で、食品安全や環境保全、労働安全を確保しつつ、人権・福祉に配慮した持続可能な農業経営を目指そうと取り組んでいます。ASIAGAP は信頼できる農場と消費者を結ぶ認証制度です。



六ツ美ライスセンター高木さん

福祉事業所：特定非営利活動法人アルクス（牧御堂町）

- ・就労継続支援B型事業所を運営。
- ・利用者さんがそれぞれ自分の得意を活かしたスキルアップと、やりがいと経済的自立の両方を目指しています。
- ・自社で野菜等の栽培もしており、キッチン部門でのサンドイッチやお惣菜に使用しています。他にJAから使用済みの米袋を頂いて、エコバックの作成、販売もしています。

農福連携についてお話を伺いました！

Q、どのような経緯で農福連携を行いましたか？

A.高木さん：農作業の繁忙期に人手が不足、農福連携の話を聞いたことをきっかけとして、愛知県農福連携相談窓口で、アルクスさんを紹介・マッチングして頂きました。

A,アルクス支援員さん：コロナ禍で、主力としていた自動車部品の内職が全て無くなってしまい、自社の畑に力を入れる様になりました。その中で農作業での経験が、利用者さんの経済的自立ややりがい等に繋がる可能性を感じられる様になり、農作業を積極的に受託していくようになりました。

Q、農福連携を実施してみていかがでしたか？

A.高木さん：最初は不安もありました。どうやって作業方法を指導したら良いか、どうやってコミュニケーションをしたら良いか等。でも、実際依頼してみると、丁寧に作業をしてくださり、指導は全て支援員の方がしてくださるのでスムーズに進みました。

最初は時間がかかってしまう作業もありますが、慣れてくるとスムーズに作業が出来る様になるので、大変助かっています。

Q、農福連携を実施するにあたって工夫していることは？

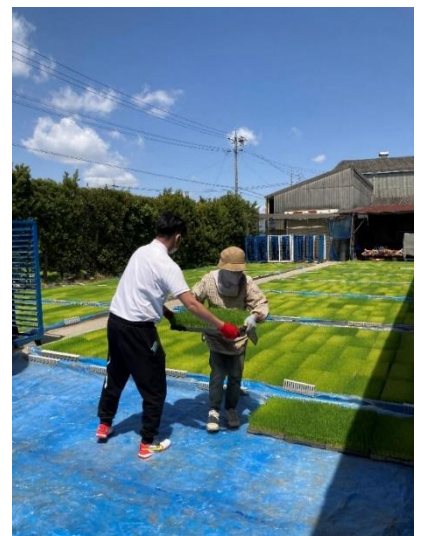
A,アルクス支援員さん：作業内容を見て、利用者さんの特性に合わせて無理なくできる作業をお願いしています。依頼いただいた作業を時間内に終わられるように安定した人数で作業に向かうようにしています。



苗箱をブラシで洗う作業



苗箱を洗浄機に投入する様子



六ツ美ライスセンターの方と
リレー方式で苗を並べていく
様子



ネギの皮を取り除く作業



ネギを計量している様子

今後は？農福連携の可能性

今後も農福連携を活用していきたいと、六ツ美ライスセンター高木さんは話されます。

六ツ美ライスセンターさんは加工業も始められ、今後拡大し、加工の作業も福祉事業所の方をお願いしたいそうです。また、田植えが始まる5月以降は、作業に追われ後回しになってしまう草刈り等も依頼したいと、農福連携の可能性は広がるばかりです。

六ツ美ライスセンターさんの商品は食べチョクサイトで購入することが出来ます。化学肥料、農薬50%以下(愛知県比)の特別栽培米や加工製品等が販売されています。気になる方は、食べチョクサイトをご覧ください。

